研究の"森"から RESEARCH TODAY

No. 6

1998.07.31

水源地域を守るために

-平6 (1994) 渇水のもたらしたもの-

はじめに

近年、水源林の適正な管理と水源地域の持続的な発展のための方策が求められています。しかし、森林のもつ水源涵養機能などのいわゆる公益的機能については、その評価が難しく、そのため、これらにかかる費用が 適正に負担されているとはいえません。一方、水源地域である上流部では、基幹産業である林業・林産業の不振や過疎化の進行、市町村財政の悪化などにより森林の管理が十分行えない場合が出ています。したがって、 水源涵養機能等の評価方法を確立すると共に、現段階で最も望ましい水源林維持・管理費用の負担形態を明らかにすることが重要です。

そのため四国支所では、上流地域の森林管理費用の負担に関する基礎資料を整備するために、平6渇水の経過を記録するとともに、これを契機として上流地域の水源林の維持・管理に関する下流域住民の意識がどのように変化したのか、そして現時点での下流域と上流水源地域との水源林を巡る交流にはどのような特徴がみられるのかを調べました。



写真 平成6年の渇水で湖底から姿を現した旧大川村役場

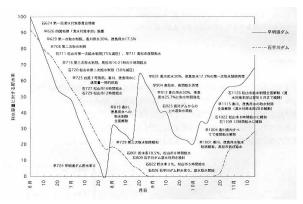


図 吉野川水系,石手川水系の渇水の経過

渇水の経過と水源林を巡る動き

まず,この渇水の経過ですが,前図のように「四国の水瓶」といわれる吉野川水系の早明浦ダム,石手川水系の石手川ダムなどで貯水量が 0 になるなど各河川の渇水は深刻で,多くの市町村で産業や市民生活に大きな 支障を来たしました。例えば香川県では,6月29日に始まった早明浦ダムからの香川用水の取水制限は11月14日までの,延べ128日間にもおよび,5市23町,香川県内の給水人口の約80%が影響を受けました。

表 平6渇水以降の水源林などへの関心の高まり(平成9年上半期まで)

95	月 事 項			下流地坡		上流地域
94	8 水液沥瓷补糖入	水流林源人	Æ	海知斯	35	仁淀材
95	5 水道海瓷基金 設立	基金設立	愛	今物市	2	支用持等
	3 水源消炎体への植樹	森林整備	2	Edit iff	Ø	松油市
	5 広英樹2,000本植樹	森林整備	*		74	大川村
	3 下草刈りなどの実施	森林整備	19		M	大川社
	11 「四国林玖迷箱協議会」等約110人(便島県からの一般 参加15人を含む)が森林整備	器林整旗	4型		A	大川村
96	4 大川村で130人が植物	酒林整備	香		14	大川村
	5 香川の水源延りの旅で早明浦ダムに植樹	森林整備	香		35	大川村
	5 労組員ら市民カンパ資金で水源源養林へ植構	森林整備	2	松山市	爱	te drift
	10 子供ら400人、「恵みの森」づくり	森林整備	高香		×	本川村
	11 「森林を育てる子供の集い」。今治の小中生らが植贈	森林整備	2	今治市	2	王川村等
97	3 「交流の森」植樹準備 (地掛え)	森林整備	8		24	大川村
	4 大川村ふるさとむら公社「友達の森」開設	為林整備	本	高知市等	*	大川村
	5 労組員ら市民かが資金で水源面姿林へ植樹	森林整線	2	Medical Section 19	2	松山市
94	10 水道涵養味購入費用の姿付	客付	2	松山市	2	松山市
	10 高松市7ロータリークラブと香川高知県人会が緑化費用 80万円を寄り	答付	否	高松市	×	本川村
	11 「吉野川源水をはぐくむ会」 (億鳥市) の千円存金の音 付	遊信	徳	色角市	器	大川村
	12 奈良で各川県出身の指揮者チャリティー演奏会	寄付	27		A	大川村
95	1億島県「吉野川瀬水をはぐくむ会」が瀬流域の森林保全 のため300人分の会費増る	#11	Œ		為	大川村
	2 「交流の森」に100万円寄付	寄甘	25	高松市	*	大川村
	4 松山市の婦人会が「愛媛の森林基金」へ150万円を寄付	寄甘	爱	松山市	*	
96	2 高松市8ロータリークラブが「交流の森」に100万円容 付	寄付	香	高松市	20	大川村
	2 高知しCが水源地の森林整備に400万円寄贈	寄付	*	高知市	75	土佐町
94	8 水源の森林フォーラム i n 愛媛	啓蒙·昔及	2	松山市	-	
95	2 徳島池田や顕北などの町村検討会を発足	答案·普及	隻		*	
	9 「愛媛の森林基金」が水道の森林体験教室	磁架·普及	2	字和烏市等	-	
	10「みんなで語ろう『木と交流』流域フォーラム』	密架·普及	世		*	
	11 松山市 山を競る会「石手フォーラム」	森林整備	爱	松山市	更	#Selection 1
96	1 古野川水道地域の未来を考える会	穆家·普及	-		育	做北5町村
	9 「愛媛の森林基金」が森林教室	答案·替及	爱		2	
96	3 大川村の30人高松市訪問	交流	香	高松市	高	大川村
	8 张北物產展	交流	*	高松市	高	做北5町村

しかし、この渇水を契機に下流地域に住む人々が、上流の水源地域へと目を向け始めたのも事実です。右の表は平6渇水以降、四国地方でみられた水源林や水源地域を巡る動きをまとめたものです。これをみると、まず、平6渇水以降、水源林や水源地域を守っていこうという気達が高まっていることが分かります。次に、活動の内容ですが、最も多いのが下流域の市民等がボランティアなどで上流の水源地域に植樹などを行う森林整備活動、次いで水源林整備費用の寄付、そして啓蒙・普及活動、交流活動などとなっていますが、市町村等による水源林の購入や水源林の維持・管理のための基金設立等、いわゆる公的資金の導入はそれほど多くはみられません。

今後の課題

このような水源林や水源地域を守る活動を一部の人たちの「善意」だけに任せておけばよいというわけにはいきません。なぜなら、水を使うことにより得られる利益(効用)は,ある水源地域の水を利用するすべての 人々に分かち合われるものであり,その中で「払う人」と「払わない人」が出てきてしまったら不公平になるからです。今後,上記の結果を踏まえ,現時点での水源林の維持・管理や水源地域の持続的発展のための費用 の適正な負担形態について研究を進めていきたいと考えています。

企画・製作 四国支所	お問い合わせはこちらまで・・・ 森林総合研究所 企画調整部 研究情報科広報 係 〒305 茨城県稲教郡薬崎町松の里1
	TEL 0298-73-3211 FAX 0298-74-3720 E-mail kouho@ffpri.affrc.go.jp